



持続可能な社会って
どうやって作るの？



**地方部に眠る自然資源を活用すれば、
さまざまな問題が解決できる
可能性があります。**



**再生可能エネルギーは、
地域活性化の切り札？！**

地球温暖化対策や持続可能な循環型社会を作る手段のひとつとして、太陽光や風力、水力などの再生可能エネルギーの利用があげられます。これらのエネルギー源は、都市部よりも地方部に豊富にあり、日本各地で再生可能エネルギー事業の実施が検討されています。ところが、これに該当する地域の多くは、過疎化や地域経済の停滞など、解決しなければならない差し迫った課題を抱えているため、当該事業は優先されにくい状況です。しかし、地域資源を利用した再生可能エネルギー事業を進めることは、温暖化対策や地域の持続可能性の向上だけでなく、新たな雇用の創出など、地域活性化につながる事が期待できます。

**経済的な豊かさだけでなく、
精神的な豊かさの指標づくりも。**

地域の資源を活かした再生可能エネルギー事業と地域活性化を両立させようとしている例が、岐阜県の石徹白(いとしろ)地区。人口約270名の小さな集落ですが、豊富な農業用水を活かした小水力発電事業を2007年にスタート。今では、集落全体で使うよりも多くの電力を生み出しています。そして、それをきっかけに地域活性化の取り組みもはじまり、少しずつ同集落への移住者も増えているとのこと。このように、豊富な資源をうまく活用し、エネルギーや観光資源として利用することで、その地域を活性化させる。この仕組みを考えることに研究のおもしろさがあります。今後は、人とのつながりや自然とのふれあいなど、地域活性化によってもたらされる精神的な豊かさの貨幣換算にも取り組んでいきたいと考えています。



大野 栄治 先生

Eiichi Ohno

「都市計画をやりたい」と思い、工学部の土木工学科に進学。大学院在籍中、教授から助手の仕事のお誘いを受け、自分でも気づかないうちに研究の道へ。与えられた環境の中で最善を尽くしたことで道が開けましたね。

**私の
宝物**



**助手時代2年目に
学生からもらった置き時計。**

この時計をくれた学生とは年齢が近いこともあり、プライベートでも一緒によく活動していました。これを見ると、学生との絆や当時の研究の大変さを思い出します。